一般社団法人人文地理学会 2015 年（2014 年度）定時社員総会（会員総会）

2015 年 11 月 14 日　16 時 30 分～18 時 00 分　於：大阪大学豊中キャンパス　全学教育推進機構　講義 C 棟　C102

〈1〉 開会宣言　（石川義孝会長）

〈2〉 議長選任　（秋山道雄常任理事）

〈3〉 定足数の確認、議事録の署名人２名（出席代議員から）の選出（秋山道雄常任理事）

- -

〈4〉議事

報 告 事 項

【Ⅰ．２０１４年度 事業報告】

1．庶務委員会　（秋山道雄常任理事）

①会員の動向　（2015 年 9 月 30 日現在）

年度	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014 (2014.10~2015.9)
会員	1480	1468	1410	1394	1329	1323	1231	1399（国内 1237、海外 12）（団体会員 150）
(学生)	—	—	—	(63)	(84)	(91)	(105)	(115)
入会	40	48	39	44	49	27	39	46
(学生)	—	—	—	(21)	(33)	(19)	(27)	(17)
退会	74	54	57	60	57	33	46	40 (逝去 5)
(学生)	—	—	—	—	—	—	—	
除籍	24	—	40	—	57	—	44	—

*除籍は隔年（名簿発行年）

②交換・寄贈雑誌　（2015 年 9 月 30 日現在）

国内交換雑誌　42 誌　　海外交換雑誌　12 誌

③2014 年度常任理事会・社員総会・理事会の開催

常任理事会（定例 5 回）

社員総会（1 回）

理事会 5 回（10 月 4 日、1 月 24 日、4 月 11 日、7 月 11 日、9 月 26 日）

④一般社団法人人文地理学会の設立

2014 年 10 月 1 日をもって一般社団法人人文地理学会が設立された。

⑤2015 年度人文地理学会常任委員（任期：2015 年 11 月～2016 年 11 月）の委嘱，　〈別紙 1〉

2. 会計委員会　（三木理史常任理事）

①会費納入状況（2015 年 10 月 1 日現在）

会員数（個人）　1237 名

67 巻完納；1026 名(納入率 83%)、66 巻まで(1 年未納)；151 名(内、住所不明 1)
65 巻まで(2 年未納)；39 名(内、住所不明 1)

②部会の会計報告(2015 年 9 月末時点)

研究部会名	収入(円)	支出(円)	残高(円)
歴史地理	80,000	65,450	14,550
地理思想	80,000	64,900	15,100
都市圏	80,000	73,420	6,580
地理教育	80,000	79,712	288
政治地理	80,000	45,962	34,038

③補助金関係

国際情報発信強化への応募は、今年度は編集体制の大規模な変更が行われるため見送ることになった。

④国際地理オリンピックへの寄附

学会としての寄付金額にふさわしい 10 万円／年を寄付することになった。

⑤若手研究者国際会議派遣助成

IGU 京都大会の返済金を基金として、50 万円／年を助成することになった。

3．編集委員会　(野間晴雄常任理事)

①雑誌編集状況　**〈別紙２〉**

②『人文地理』の季刊化への移行

2015 年度第 68 巻より『人文地理』を年 6 回刊行から年 4 回刊行に移行することを決定（4 月理事会）し、印刷業者の入札による選定（中西印刷株式会社に決定)、 表紙デザイン、 投稿規程、執筆要領の検討にはいり、J-stage への登載をめざすこととした。

③査読基準の見直しと投稿者への評価の明示

投稿論文の査読による評価基準をＳ、Ａ、Ｂ、Ｃ、Ｄの５ランクとし、その結果を投稿者に明示することにした。

4. 集会委員会　(藤田裕嗣常任理事)

①大会

2014 年人文地理学会大会

広島大学東広島キャンパス：2014 年 11 月 8 日（土)・9 日（日)・10 日（月）

特別研究発表 4 件（2 会場)、一般研究発表 58 件（一般発表 44 件、セッション 2 組 7 件、ポスター発表 7 件)、シンポジウム（地理科学学会第 31 回シンポジウムを兼ねる)、「2014 年 8 月広島土砂災害」関連緊急ポスター発表、

大会参加者 272 名、懇親会参加者 132 名（うち学生 16)、エクスカーション、部会アワー（研究部会）参加者計 102 名

2015年人文地理学会大会

大阪大学豊中キャンパス：2015年11月14日（土）・15日（日）

特別研究発表4件（2会場）、一般研究発表81件（一般発表55件、セッション4組15件、ポスター発表11件）

部会アワー（研究部会）（エクスカーションなし）

②例会

第282回　2015年4月21日（土）神戸山手大学、テーマ：「地理学の観点からの防災研究」発表2件・コメント2件。参加者44名。

第283回（特別例会）　2015年6月13日（土）　ミニ巡検22名。宮崎大学、13日 発表4件・参加者82名。懇親会75名。14日 エクスカーション：「日南市の花・実・魚・酎・旨・古－風土の神髄に触れる－」参加者59名。

③研究部会

歴史地理研究部会

［第137回］2014年11月9日（日）大会部会アワー、発表1件・参加者26名

［第138回］2015年5月23日（土）（地理教育研究部会と共催）滋賀大学大津サテライトプラザ、テーマ：「地理教育における『歴史的背景』と歴史教育における『地理的条件』－教育に活きる歴史地理学の視座－」発表3件・参加者52名

［第139回］2015年7月25日（土）京都大学、テーマ：「歴史地理の卒論発表会」発表2件、コメント2件・参加者20名。

［第140回］2015年9月26日（土）甲南大学、テーマ：「空中写真からみたアジア・アフリカ農村の変動」発表2件とコメント1件・参加者33名。

地理思想研究部会

［第117回］2014年11月9日（日）大会部会アワー、発表1件・参加者13名

［第118回］2014年11月22日（土）大阪市立大学杉本キャンパス高原記念館、テーマ：「人種・民族をめぐる空間闘争―クラウディオ・ミンカ（Claudio Minca、ワーゲニンゲン大学）氏を迎えて」、発表1件・参加者20名

［第119回］2015年3月7日（土）キャンパスプラザ京都、テーマ：「ジェントリフィケーション論の現在」発表1件とコメント・参加者40名

［第120回］2015年7月4日（日）奈良女子大学、テーマ：「メンタルヘルスの地理学」発表と話題提供2件・参加者20名

都市圏研究部会

［第53回］2014年11月9日（日）大会部会アワー、発表1件・参加者27名

［第54回］2015年4月25日（土）、京都市生涯学習総合センター、テーマ：「大都市の商業空間」発表2件・参加者21名

［第55回］2015年10月17日（土）、明治大学駿河台キャンパス、テーマ：「現代都市の『住宅問題』－東京圏と地方都市」発表2件・参加者17名

地理教育研究部会

［第 31 回］2014 年 11 月 9 日（日）大会部会アワー、テーマ：「市民性と地理教育」、発表 1 件、報告 1 件・参加者 12 名

［第 32 回］2014 年 12 月 14 日（土）（兵庫地理学協会と共催）　テーマ：「自然地理学の役割」発表 2 件、コメント 1 件・参加者 70 名

［第 33 回］2015 年 5 月 23 日（土）（歴史地理研究部会と共催）上記を参照。

［第 34 回］地理教育夏季研修会 2015 年 8 月 8 日（土）（兵庫地理学協会と共催）明石市立生涯学習センター、テーマ：「地理教育におけるアクティブ・ラーニング」発表 3 件、ワークショップ 1 件・参加者 76 名

政治地理研究部会

［第 11 回］2014 年 11 月 9 日（日）大会部会アワー、テーマ：「監視社会と防犯」、発表 1 件・参加者 14 名

［第 12 回］2014 年 11 月 22 日（土）（地理思想研究部会と共催）上記を参照。

［第 13 回］2015 年 3 月 1 日（日）　京都大学吉田キャンパス、テーマ：「占領と人権」、発表 1 件、コメント 1 件・参加者 20 名

［第 14 回］2015 年 5 月 30 日（土）　ウィンクあいち、発表 1 件・参加者 23 名

［第 15 回］2015 年 5 月 31 日（日）　同志社大学今出川校地今出川キャンパス、テーマ：「所有と立ち退き」、発表 2 件・参加者 28 名

※8/21 を期日にした「設立申請」は、以上の 5 研究部会からあり、理事会で承認された。

④2016 年の大会・特別例会について

2016 年人文地理学会特別例会

2016 年 6 月 25 日（土）・26 日（日）に茨城大学で開催

2016 年人文地理学会大会

2016 年 11 月 12 日（土）・13 日（日）に京都大学で開催

5．企画委員会　（古賀慎二常任理事）

①第 15 回人文地理学会 学会賞　　**〈別紙３〉**

・学会賞候補者選考委員会委員を以下の通り委嘱した（2015 年 1 月）。　※印は委員長

[学術図書部門]

伊東　理（関西大学・新任）※　　井村博宣（日本大学・新任）

田和正孝（関西学院大学・留任）　　西原　純（静岡大学・新任）

[学術図書部門奨励賞]

伊東　理（関西大学・新任）※　　井村博宣（日本大学・新任）

田和正孝（関西学院大学・留任）　　西原　純（静岡大学・新任）

[一般図書部門]

高橋春成（奈良大学・留任）　　堤　研二（大阪大学・留任）※

西野寿章（高崎経済大学・新任）　　中西僚太郎（筑波大学・留任）

[論文部門]

内田忠賢（奈良女子大学・新任）　　井上　孝（青山学院大学・留任）※

矢ケ崎典隆（日本大学・留任）　　山田浩久（山形大学・新任）

・2015年3月28～29日に日本大学にて、学会賞候補者選考委員会を部門別に開催した。

各委員会では、9月中旬の答申までの委員会の進め方について意見交換がなされた。

・学会賞候補者選考委員会からの答申（2015年8～9月）

各部門の候補者選考委員会から受賞候補者について答申があった。受賞候補者および候補図書・

論文は以下の通りである。なお、本答申については、2015年10月10日の第6回理事会で承認。

[学術図書部門]

受賞候補者：中澤　高志会員

受賞候補図書：『労働の経済地理学』日本経済評論社，2014年，317頁。

[学術図書部門奨励賞]

受賞候補者：大呂　興平会員

受賞候補図書：『日本の肉用牛繁殖経営―国土周辺部における成長メカニズム―』農林統計協会，2014年，179頁。

[一般図書部門]

受賞候補者：山川　充夫会員

受賞候補図書：『原災地復興の経済地理学』桜井書店，2013年，225頁。

[論文部門]

受賞候補者：杉江　あい会員

受賞候補論文：「バングラデシュ農村におけるヒンドゥー社会の変容―タンガイル県B村を事例として―」『人文地理』第66巻第4号，307～329頁。

② 地理学連携機構関連

・2015年3月27日に日本大学にて、第7回地理学連携機構・地理関連学会連合・人文･経済地理及び地域教育関連学会連携協議会合同総会が開催された。

上記3組織の要綱改正が審議され、承認された。また、人文･経済地理及び地域教育関連学会連携協議会議長に石川義孝会員、同副議長に古賀慎二会員が選出された。さらに、地理学連携機構の幹事に古賀慎二会員が選出された。なお、2015年4月1日より地理学連携機構の事務局が人文地理学会から日本地理学会へ移動した。

③ 若手研究者国際会議派遣助成制度の創設　　**〈別紙4〉**

・2015年度よりIGUの活動に係る研究集会において発表する本学会の若手会員に対し、助成を行う制度を創設した（2015年4月11日理事会・7月11日理事会最終承認）。

2013年京都国際地理学会議組織委員会からの寄附金の使途として「若手研究者国際会議派

遣助成制度」を創設することが提案された。同時に募集要項・選考要領・申請書および重複申請等に関する説明書の素案も審議され、承認された（4月理事会）。その後、同制度に係る募集要項等の細部の修正案を提案し、最終承認された（7月理事会）。なお、本助成制度は2015年11月の社員総会にて報告。

6．広報委員会　（古賀慎二常任理事）

① 広報活動

公式ＨＰを通じて、学会活動の情報を会員および社会に周知させることにつとめた。

【Ⅱ. 2015年度事業計画】

2015.11.1作成

月	理事会	大会	編集	例会・部会	他学会	前年度
2015年 11月	28:常任理事会	14-15:大阪大	7日			8-9:広島大 15:編集委 22:地理思想部会・政治地理部会共催
12月	5:理事会					5: 常任理事会 13:常任理事会 14:地理教育部会 20:理事会・設立祝賀会
2016年 1月			日			10:編集委 24:理事会
2月		大会準備委				1:大会準備委
3月			日		21-23:日本地理学会大会	1:政治地理部会 7:地理思想部会 14:編集委 28-30:日本地理学会大会
4月	2:常任理事会 9:理事会					4:常任理事会 11:理事会 18:例会 25:都市圏研究部会
5月			日		28-30:経済地理学会大会	9:編集委 23:歴史地理部会・地理教育部会共催 23-25:経済地理学会大会
6月			日	25-26:特別例会(茨城大学	4-6:歴史地理学会大会	7:編集委 13-14:特別例会(宮崎) 27-29:歴史地理学会大会
7月	2:常任理事会 9:理事会		日			4:常任理事会 11:理事会 11:編集委
8月				地理教育部会		: 地理教育部会(研修会)
9月	17:常任理事会 24:理事会		日		日本地理学会大会	5:大会準備委 12:編集委 18-20:日本地理学会大会 21:常任理事会 26:理事会
10月	8:常任理事会 15:理事会					3:常任理事会 10:理事会 経済地理学会地域大会(金沢)
11月		12-13:京都大	日			7:編集委 14-15:大会(大阪大学) 28:常任理事会
12月	10:常任理事会 17:理事会					5:理事会 例会

審　議　事　項

【Ⅰ．２０１４年度決算（案）】　（三木常任理事）　〈別紙５〉

【Ⅱ．２０１５年度予算（案）】　（三木常任理事）　〈別紙５〉

【Ⅲ．永年会費の導入】　（三木常任理事）　〈別紙６〉

【Ⅳ．その他】

〈５〉閉会宣言、議長解任（秋山道雄常任理事）

役員等一覧

人文地理学会役員（任期：2014年10月～2016年社員総会）

会　長：　石川義孝

常任理事：　秋山道雄（庶務）　三木理史（会計）　野間晴雄（編集）
　　藤田裕嗣（集会）　古賀慎二（企画・広報）

理　事：　秋山　道雄　池谷　和信　石川　義孝　内田　忠賢　岡本　耕平
　　加藤　政洋　金坂　清則　河島　一仁　河原　典史　古賀　慎二
　　辰己　勝　長尾　謙吉　中谷　友樹　野間　晴雄　藤田　裕嗣
　　三木　理史　水野　真彦　山﨑　孝史　山崎　健　吉田容子

監　事：　山田　誠　吉越昭久

人文地理学会委員会常任委員（任期：2015年社員総会～2016年社員総会）
（＊は常任理事、＿は新常任委員）

庶務委員：　＊秋山道雄
　　大山修一　鍬塚賢太郎　立見淳哉

会計委員：　＊三木理史
　　網島　聖　堀内千加

編集委員：　＊野間晴雄
　　荒山正彦　石﨑研二　岩本廣美　小方　登　香川貴志　河原典史
　　木村圭司　祖田亮次　原　秀禎　松田隆典　水野真彦　薬師寺浩之
　　山近博義　山本俊一郎　和田真理子

集会委員：　＊藤田裕嗣
　　河本大地　中谷友樹　二村太郎　水野一晴

企画委員：　＊古賀慎二
　　大石太郎　松井幸一　松永光平

広報委員：　＊古賀慎二
　　駒木伸比古　波江彰彦

人文地理学会代議員（任期：2014 年 10 月～2016 年 9 月）

秋山　道雄 **	川口　太郎	日野　正輝
秋山　元秀	河島　一仁 *	平井　松午
淺野　敏久	河原　典史 *	福田　珠己
阿部　和俊	呉羽　正昭	藤井　　正
荒井　良雄	古賀　慎二 **	藤田　裕嗣 **
荒木　一視	小島　泰雄	藤巻　正己
伊藤　健司	小長谷　一之	二村　太郎
生田　真人	小林　　茂	増渕　敏之
池口　明子	米家　泰作	松井　圭介
池谷　和信 *	佐藤　廉也	松原　　宏
石川　義孝 ***	佐野　静代	松本　博之
岩動　志乃夫	島津　俊之	三木　理史 **
井田　仁康	杉浦　真一郎	水野　真彦 *
出田　和久	関戸　明子	溝口　常俊
伊藤　　悟	高木　彰彦	南出　眞助
今里　悟之	高橋　春成	宮澤　　仁
岩鼻　通明	高橋　　誠	宮町　良広
上田　　元	高柳　長直	村山　祐司
内田　忠賢 *	竹中　克行	森　　正人
大西　宏治	辰己　　勝 *	八木　康幸
岡本　耕平 *	田中　和子	矢野　桂司
小田　宏信	谷　　謙二	山川　充夫
小田　匡保	田和　正孝	山口　　晋
小野　有五	千葉　立也	山﨑　孝史 *
遠城　明雄	堤　　研二	山崎　　健 *
加賀美　雅弘	椿　真智子	山下　清海
香川　貴志	手塚　　章	山田　晴通
香川　雄一	戸井田　克己	山田　　誠 #
梶田　　真	友澤　和夫	山野　正彦
片平　博文	豊田　哲也	山村　亜希
加藤　政洋 *	中島　弘二	山本　健兒
金坂　清則 *	中西　僚太郎	山元　貴継
兼子　　純	中谷　友樹 *	由井　義通
神谷　浩夫	鳴海　邦匡	吉田　道代
		若林　芳樹

* 理事　　** 常任理事　　*** 代表理事

監事

2014年度　　会 務 報 告(編集委員会)

「人文地理」誌 編集状況

	2014. 11.15.	15.01.10.	15. 03.14.	15.05.09.	15.06.06.	15.07.11.	15.09.12.	合計	総計	2013	2012	2011	2010
論説　新規	2	1	3	1	1	2	2	12	15	20	23	26	26
論説　再投稿	−	1	−	−	−	2	−	3					
展望　新規	−	−	−	−	−	1	−	1	4	8	7	6	1
展望　再投稿	2	1	−	−	−	−	−	3					
研究ノート新規	3	1	−	3	−	−	2	9	14	10	8	26	21
研究ノート再投	−	1	1	−	1	2	−	5					
フォーカス　新規	−	1	−	−	−	−	−	1	1	集計なし	集計なし	集計なし	集計なし
フォーカス　再投	−	−	−	−	−	−	−	−					
合計	7	6	4	4	2	7	4	34	34	38	43	58	48
論説　採択	−	1	−	−	−	2	−	3	15	5	5	7	7
論説　再投稿要	1	−	−	1	1	−	1	4		8	8	6	11
論説　返却	1	1	3	−	−	2	1	8		5	5	13	8
展望　採択	−	1	−	−	−	−	−	1	4	1	1	2	0
展望　再投稿要	2	−	−	−	−	−	−	2		4	4	3	1
展望　返却	−	−	−	−	−	1	−	1		1	1	1	0
研究ノート　採択	−	2	−	−	−	2	1	5	14	2	2	8	7
研究ノート　再投	2	−	−	2	1	−	1	6		3	3	11	8
研究ノート　返却	1	−	1	1	−	−	−	3		2	2	7	6
フォーカス　採択	−	1	−	−	−	−	−	1	1	非集計	非集計	非集計	非集計
フォーカス　再投稿	−	−	−	−	−	−	−	−					
フォーカス　返却	−	−	−	−	−	−	−	−					
合計	7	6	4	4	2	7	4	34	34	31	31	58	48

・英文特集の英文原稿はカウントせず。
・原稿種別変更における再投稿の場合は、当初種別では「返却」、再投稿時の種別では「新規」として計上した。
・外部レフリー率:% （昨年度:21%、一昨年度:30%）

若干のコメント

	2014	2013	2012	2011	2010		2014	2013	2012	2011	2010
論説採択率	20%	28%	28%	27%	27%	論説返却率	53%	28%	28%	50%	31%
展望採択率	25%	17%	17%	33%	0%	展望返却率	25%	17%	17%	17%	0%
研究ノート採択	36%	29%	29%	31%	33%	研究ノート返却率	21%	29%	29%	27%	29%
フォーカス採択	100%	非集計	非集計	非集計	非集計	フォーカス返却率	0%	非集計	非集計	非集計	非集計
全体採択率	29%	26%	26%	29%	29%	全体返却率	35%	26%	26%	36%	29%

＊新規投稿と再投稿は別個にカウントして比率算出の際の母数としているため、投稿者数を母数にすればそれぞれの率は上がる。

(1)昨年度と同様に隔年現象の傾向は顕著でなく、投稿数は漸減傾向にある。
(2)全体採択率はやや持ち直したものの、とくに「論説」の返却率が上昇しており、投稿論文の優劣が顕著になっている。
(3)「論説」に仕上がりの粗い原稿が多く、それを「研究ノート」に種別変更要請したケースが反映されて、研究ノート採択率が上昇した。
(4)「編集委員会3週間前の火曜日」という締切間際に到着する原稿が多く、これが外部レフリーの依頼を困難にしている。

「人文地理」各号　発行状況

	総頁数	論説	展望	研究ノート	フォーカス	フォーラム	書評	英文
66巻5号	88	1	0	1	0	0	1	4
66巻6号	114	8	0	0	0	0	0	106
67巻1号	106	1	1	1	1	0	0	6
67巻2号	80	0	1	1	0	0	7	2
67巻3号	98	1	1	1	0	0	2	2
67巻4号	82	1	0	2	0	0	3	3
合計	★568	12	3	6	1	0	13	123
昨年度合計	602	14	2	3	2	0	0	132
一昨年度合計	564	3	7	10	2	0	0	178

＊66巻5号の「書評」は、旧来の規程に基づく「文献解題」である。
＊66巻6号の「論説」は、すべて英文特集号における英語論文である。
＊67巻2号より、新カテゴリーの「書評」が創設された。
＊67巻3号の「展望」は、学界展望である。
＊67寛3号と4号の英文ページ数は、論文(学界展望を除く)1本につき1ページで概算した。
＊67巻4号のページ数は、入稿前の掲載予定原稿と目次(両方で18p)を含む。
★合計頁数には未定稿が含まれている。
英文占有率　(昨年度:27%、一昨年度:36%)

2015年10月3日　常任理事会
2015年10月10日　理事会
2015年11月14日　社員総会
（起案：企画委員会）

第15回(2015年)人文地理学会 学会賞 選考結果(選考委員会答申)

●学術図書部門

受賞候補者：中澤高志 会員

受賞対象図書：『労働の経済地理学』日本経済評論社，2014年，317頁。

●学術図書部門奨励賞

受賞候補者：大呂興平 会員

受賞対象図書：『日本の肉用牛繁殖経営―国土周辺部における成長メカニズム―』農林統計協会，2014年，179頁。

●一般図書部門

受賞候補者：山川充夫 会員

受賞対象図書：『原災地復興の経済地理学』桜井書店，2013年，225頁。

●論文部門

受賞候補者：杉江あい 会員

受賞対象論文：「バングラデシュ農村におけるヒンドゥー社会の変容―タンガイル県B村を事例として―」『人文地理』第66巻第4号，307～329頁。

以上

2015年8月20日

一般社団法人 人文地理学会
会長　石川 義孝 様

人文地理学会学会賞（学術図書部門）
候補者選考委員会　　委員長　伊東　理
委　員　井村博宣
田和正孝
西原　純

2015年人文地理学会学会賞（学術図書部門）および（学術図書部門奨励賞）
の候補者について（答申）

本委員会では，2015年1月24日付文書にて人文地理学会学会賞（学術図書部門）および人文地理学会学会賞（学術図書部門奨励賞）の受賞候補者選考の正式な依頼を受けた。これに基づき3月28日に第1回委員会を開催し，選考方法を決定したのち具体的な選考作業を進めた。その結果，各賞の受賞候補者を決定したのでここに答申する次第である。選考理由については，別紙の通りである。

記

人文地理学会学会賞（学術図書部門）受賞候補者：中澤高志会員
受賞候補図書：『労働の経済地理学』，日本経済評論社，2014年，317頁.

人文地理学会学会賞（学術図書部門奨励賞）受賞候補者：大呂興平会員
受賞候補図書：『日本の肉用牛繁殖経営―国土周辺部における成長メカニズム―』，
農林統計協会，2014年，179頁.

以上

2015年人文地理学会学会賞（学術図書部門）受賞候補者・受賞候補図書

受賞候補者：中澤高志 会員

受賞候補図書：『労働の経済地理学』，日本経済評論社，2014年，317頁.

選考理由：

1990年代後半以降日本では，雇用体系の変化，就業形態の多様化，就職斡旋やキャリア支援制度の変化など，労働をめぐる変化には著しいものがあるが，これらの地域的実態についての地理学研究は遅れがちである。また，日本の労働に関する地理学研究は，労働力の地域的移動，企業の立地と労働力など，労働力を主たる研究対象としてきたが，近年英語圏でその研究が盛んな行為主体としての労働者に視点を置いた研究は極めて少ない。

以上の労働をめぐる日本の地理学が抱える研究課題に果敢に取り組んだ本書は，労働者の視点に立ち，労働市場の媒介項の役割に着目して，2000年以降の日本の地域労働市場の特徴や実態について理論的，実証的にまとめた学術書である。

本書の構成は主に総論部分と各論部分からなり，最後に本書のまとめとそこから得られた問題について考察・検討することで締めくくられている。

総論部分にあたる２編（第1，2章）の論考では，1990年代以降英語圏で進められた「労働の地理学」に関する研究や現代の労働市場を理解するための諸概念を丹念に整理・考察して，従来の「労働力の地理学」研究から「労働の地理学」研究へとシフトしてきたことの意義を明らかにした後に，既存の研究成果を再咀嚼しつつ独自の見解をも加味して独創的な研究課題と分析視角を呈示している。すなわち，今日の労働市場は価格メカニズムに加えて，社会的に調整されていることからして，実証研究においては労働市場（雇用者と労働者）の媒介項の分析が重要となり，また地域労働市場における具体的な問題は雇用と労働に時間的，空間的，スキル的ミスマッチが生じるところにあり，現代日本の周辺的な労働市場における労働の実態や雇用と労働のミスマッチを解消するための各種支援制度の課題など，について実証研究を進める必要があるものとしている（第１章）。また，現代の地域労働市場の実態を解くためのフレキシビリティ，ワークフェア等の諸概念の整理やその有効性について検討され（第２章），それらの概念は以下の実証研究の分析・考察に活かされていくこととなる。以上の総論部分は英語圏の「労働の地理学」の研究展望としても十分に評価できるし，理論的に呈示された本書の課題設定や分析視角は斬新で独自性があり，示唆深い内容となっている。

総論で述べられた理論的考察と課題設定をもとにして，各論部分にあたる６編（第3～8章）の実証研究では，高卒者の就業，間接雇用労働者の問題，女性の在宅就業や海外就業，若手不安定就業者の支援制度など，現代日本の労働市場における労働や労働者の地域的実態や労働市場政策の課題について取り上げられている。各論考では，最初に当該課題に関する丹念な研究レビューと課題に関する事象の全国的概要の検討などによって問題の所在を明確に示した後に，具体的な地域労働市場での詳細な事例研究がなされている。事例研究の多くが大分県を対象としているが，いずれも綿密な現地調査や資料・統計の分析をもとにした緻密な実証分析がなされており，随所に貴重な事実や説得力のある実証的成果に満ちた論考となっている。

最後に，こうしたレベルの高い実証研究の知見をまとめて，現代日本の労働市場の特徴，課題として，昨今の労働市場の媒介項の大半が需要（雇用者）側のニーズに応える形で労働力の空間的・時間的ミスマッチを解消するものとして機能していること，また労働力需給のスキル・ミスマッチを解消する機能の未整備が現代日本の労働市場政策の大きな課題となることが指摘されている。そして後者の問題を取り上げ，日本で

はあまり知られていない「スキル・エコシステム」という概念を考察・援用して，労働者のスキル開発，教育，訓練のあり方を議論・検討している（第９章）。この最後の章「スキル・エコシステムの概念とキャリア開発」は，「スキル・エコシステム」の概念およびそれを基盤に策定された海外の労働市場政策などを紹介・検討した貴重な論考であり，また地理学が労働市場政策において貢献できるところを具体的に示していることなど，傾聴に値する指摘も多くみられる。

本書は，最近の欧米の研究動向を踏まえ，日本の労働を対象とした地理学に新たな分析視点を確立するとともに，従来地理学では体系的に考察されることのなかった現代日本の労働や労働市場をめぐる地域的実態と課題を綿密な分析によって理論的，実証的に明らかにした斬新な高著である。また，本書には緻密な調査，実証によって得られた数多くの新たな事実や示唆深い知見が随所にみられ，新しい日本の労働地理学の礎を築いた著書として，また現代日本の労働市場の実態や課題を考えるのに有効となる社会的価値のある著書として，高く評価することができる。

以上のことから，本書は人文地理学会賞（学術図書部門）の授与にふさわしいすぐれた著作であり，著者をその候補者として推薦する。

2015年人文地理学会学会賞（学術図書部門奨励賞）受賞候補者・受賞候補図書

受賞候補者：大呂興平 会員

受賞候補図書：『日本の肉用牛繁殖経営―国土周辺部における成長メカニズム―』，
農林統計協会，2014年，179頁.

選考理由：

1980年代後半以降，農産物の自由経済体制への移行，農業保護政策の後退，農業労働力の大量引退，土地利用の粗放化などによって，日本の農業は大きな変化をみてきた。このような状況下で，日本の国土周辺部ないし縁辺地域では，和牛・肉用牛の子牛の生産＝肉用牛繁殖経営が拡大してきている。本書はこうした事実に着目して，具体的な肉用牛繁殖農家の経営をめぐる動態と現状を分析することによって，わが国の国土周辺部で成長してきた肉用牛繁殖経営の発展過程とその経営動態および国土周辺部における肉用牛繁殖経営産地の立地と特徴についてみた学術書である。

本書は序論，研究アプローチ，事例研究，結論の４部（全８章）から成る。序論（第１章）では問題の所在が示され，次いで全国における肉用牛繁殖部門生産の地域的動向を明らかにし，さらに主要産地の概要と２部の事例研究で取り上げる対象地域の選定について論じている。わが国における肉用牛繁殖部門の発展過程と子牛生産の主要産地とその特性について的確に示すとともに，事例研究地域の選定について説得力ある説明がなされている。

研究アプローチ（第２章）では，地域の肉用牛繁殖部門の生産拡大過程を理解するには，地域内の個別農家経営の動態を一般化して捉える必要があり，その分析視角・方法として「経営群の進化」，「適応的技術変化」という概念を提起・説明して，第３部の事例研究につなげている。ここで示された分析視角・方法は事例研究で活かされており，それは肉用牛繁殖部門に限らず地域農業の変動メカニズムを分析するのに有効なものと考えられ，示唆深い内容となっている。

本書の中心をなす第３部の「事例地域における肉用牛繁殖経営群の動態」（第3～6章）では，縁辺地域に位置する沖縄離島部，北海道十勝・大樹町，隠岐・知夫里島の３事例を取り上げている。それぞれが生態環境や農業形態など異なる地域であるが，統一した調査内容，分析方法で長時間にわたる農家へのインタビュー調査や綿密な実地調査によって，それぞれの地域でみられてきた伝統的な農業に新たに肉用牛繁殖経営が地域に根付いていく過程，肉用牛繁殖経営農家の経営実態分析によって各産地さらには縁辺地域で肉用牛繁殖経営が拡大してきた要因と成長メカニズムを見事に解明している。各事例調査研究の調査内容，分析方法，分析結果の解釈はいずれも論理的かつ明解で説得力があり，また分析内容，結論はともに高く評価できるものとなっている。

結論（第７・８章）は，二つの章からなる。まず最初に，事例地域での肉用牛繁殖経営規模，技術的特徴，経営動態に関する比較分析をした後に，その他の日本の主要な肉用牛繁殖産地の特徴についても考察している。そして経営的・技術的特徴と経営動態などを指標にして，日本の肉用牛繁殖の主要産地（計６産地）の類型的区分を呈示するのに一定の成功を収めている（第７章）。最後に，本書の事例研究で得られた成果や経験を踏まえ，今後さらに牛肉の日本市場の開放が進展することと予想される日本の肉用牛繁殖部門の将来について考察し，今後の動向は市場開放などマクロな要因による影響を受けるミクロレベル（産地，経営農家）での動態や対応の如何によるところが大きいことを論証した興味深い論考で締めくくっている（第８章）。

本書は，地理学ではあまり知られていない課題に対して，斬新な分析視角・分析方法を用いて行われた緻密

な地域調査結果を中心に据えて，日本農業をめぐるマクロレベルでの検討も加えて，日本の肉用牛繁殖経営の展開と実態についてみた意欲的な力作といえる。本書は，全体として見事な論旨で展開された説得力のある著書で，ことに縁辺地域での三つの事例調査研究は秀逸であり、高く評価できる。また、本書には若手研究者ならではの気概や迫力が感じられ，著者大呂氏にはさらなる研究の深化と今後の活躍を確信させるものがある。

以上のことから，本書は人文地理学会賞（学術図書部門奨励賞）の授与にふさわしいすぐれた著作であり，著者をその候補者として推薦する。

2015年8月22日

一般社団法人 人文地理学会
会長　石川 義孝 様

人文地理学会 学会賞（一般図書部門）
候補者選考委員会　委員長　堤　研二
委　員　高橋　春成
西野　寿章
中西僚太郎

2015年人文地理学会 学会賞（一般図書部門）の候補者について（答申）

本委員会では、2015年人文地理学会賞（一般図書部門）受賞候補者として下記の著書の著者を受賞候補者にするという結論に至りましたので、選考理由を付して答申いたします。

【選考結果】
受賞候補者：山川充夫 会員
受賞候補図書：『原災地復興の経済地理学』、桜井書店、2013年10月、225頁。

【選考理由】
本書は、筆者の言葉によれば、2011年3月11日に発生した東日本大震災と、それによる東京電力福島第一原子力発電所の原子炉メルトダウンに起因する災害とに襲われた、福島県の被災地域に対峙した経済地理学者の記録である、とされている。各章は、2011年から2013年にかけて執筆・掲載された論考から構成されており、地理学的視点を強く意識した立場からの鋭い考察や、原災地福島の復興に向けた取り組みと課題の整理を明確に行っている。筆者は、震災発生の年の7月に設立された「福島大学うつくしまふくしま未来支援センター」のセンター長・学長特別補佐として調査・研究のみならず実践的支援活動にも携わり、その経験をふまえて執筆されたのが本書である。「はじめに」および「おわりに」のほか、13の章から成り、未曽有の災害に見舞われた地域の捉え方や、復旧・復興に向けた七つの原則、「原子力に依存しない社会」としての原災地福島の復旧・復興を目指す姿勢などが提示されている。内容は多岐にわたるが、原発事故という大災害に対して、一貫して、地理学の主要テーマである「地域」研究の視点から、現状の問題点と復興のあり方を示している。安全と安心が分断された実状に対して、安全・安心の一体的な実現の必要性を強調し、現実に即した分析と提言に満ちた記述が為されている。さらに、原発事故に基づく災害に対して、「地域」の視点が有効であることを、多数の図版によってわかりやく提示し、被害実態の把握や新規施設などの立地にＧＩＳ（地理情報システム）や立地理論の援用を説くなど、地理学の有用性を社会にアピールすることにも成功している。書かれた事実は、時間が経過したものとはいえ、研究の視点は古びていない。そして、本書で提起されている放射能汚染や避難住民などの諸問題は、今日どの程度解決されたといえるであろうか？ややもすると風化しかねない「原災地」の諸問題について、注意喚起を促す意味でも本書は広く読まれるべきものであると考えられる。以上の諸点から、本書を2015年度人文地理学会賞（一般図書部門）相当図書として選考した次第である。

2015年9月8日

一般社団法人 人文地理学会
会長　石川 義孝 様

人文地理学会学会賞（論文部門）
候補者選考委員会　委員長　井上　孝
委　員　内田忠賢
矢ケ崎典隆
山田浩久

2015年人文地理学会 学会賞（論文部門）の候補者について（答申）

本委員会は，第15回人文地理学会賞（論文部門）受賞候補者について，以下の選考経過を経て決定しました。

記

1. 選考委員会の開催

第1回選考委員会　2015年3月28日（於・日本大学）
審査対象論文，選考スケジュール，評価方法の決定
第2回選考委員会　2015年8月25日～31日（電子メールによる会議）
選考委員による評価の集約と受賞候補者の決定
第3回選考委員会　2015年9月5日～7日（電子メールによる会議）
選考結果報告書の起案と承認

2. 受賞候補者

選考委員会で慎重に審査した結果，選考対象とした9論文（論説7編，展望2編）のなかで次の論文が最も高い評価を得たため，著者である杉江氏を受賞候補者とすることが全会一致で決定された。

杉江あい「バングラデシュ農村におけるヒンドゥー社会の変容―タンガイル県B村を事例として―」（第66巻第4号，pp. 1-23）

3. 選考理由

本論文は，バングラデシュの一つの農村におけるヒンドゥー社会の変化を，現地調査に基づいて明らかにした事例研究である。バングラデシュの農村がヒンドゥーの人口流出とムスリムの人口流入によっていかなる変容を遂げたか，という問題はバングラデシュの農村を理解するうえで重要な論点である。筆者は，この問題をベンガルの農村を対象にした，アドナンと野間が挙げた2つの課題に取り組むことによって明らかにしようとした。その1つはヒンドゥーの人口流出と社会単位ショマージの変化に関するものであり，もう1つはヒンドゥー社会とムスリム社会の村落社会での葛藤に関するものである。

筆者は，これらの課題について住民へのインタビューや参与観察により論じており，それに伴う現地での調査期間は18ヶ月に及んでいる。2回の全戸調査を含む詳細なインタビュー調査や土地台帳，地籍図調査による知見は，現地でしか得られないものであり，欠損部分が多くなりがちな地域研究の弱みを緻密な調査と独創的な整理法によって補っている。こうして，本論文は英領期から最近に至るバングラデシュの農村社会の変化を住民の声を通して描ききることに成功した。

こうした海外のフィールドワークに基づく農村生態学的研究は，収集したデータを並列的に記載しその解説をしただけの論考が多い中，本論文は明確な目的に基づいて非常に詳細なデータを長期にわたって収集し，また，その記載の仕方についてもきわめて的確である。本論文のフィールドワークが海外の第三世界を相手にしたものであることに鑑みれば，おそらく筆者は調査前，調査中を通じて相当な労力をかけてその準備を行ったであろうと推測される。この点は，近年，人文地理学研究においてフィールドワークに基づいた詳細な研究が減少している中にあって，本論文の高い優位性を示すものである。さらに，筆者は今後どのような調査を行えば有効かについても熟知しており，この研究テーマの発展に寄与することが大いに期待できる。

以上の点から，委員一同は本論文が人文地理学会学会賞（論文部門）に最もふさわしいと判断した。

一般社団法人人文地理学会「若手研究者国際会議派遣助成」募集要項

1. 目的

この助成は，2013 年京都国際地理学会議組織委員会からの寄附金を原資として，IGU（国際地理学連合）の活動に係る研究集会（IGC，地域大会，プレコングレス，コミッションの研究集会など）において発表する本学会の若手会員に対し，旅費および参加登録料に充当することを目的とする。

2. 助成の対象

助成対象者は，本学会の会員で，40 歳未満（発表予定の年の 4 月 1 日現在）の者とする。本助成は，口頭発表およびポスター発表を行う個人発表者または連名発表の筆頭発表者に限る。申請は，申請者一人につき 1 件とする。

3. 助成の申請

本助成を希望する者は，別に定める申請書に必要事項を記入し，発表予定の研究集会の前年の 12 月末までに，本学会の企画・広報常任理事宛に，メールの添付ファイルによって申請するものとする。申請書は，本学会ホームページからダウンロードできる。なお、本申請とは別に、他の国際会議等への派遣助成に重複申請する方，または本発表の研究に関して科学研究費を含む他の研究助成等の交付を受けている方または交付が内定されている方が，「重複申請等に関する説明書」を提出せずに本助成を受けた場合には，助成金を返還するものとする。

4. 助成の条件

他の助成等の交付を受けている者または交付が内定している者が，本助成に申請する場合には，当該助成等の名称・金額・期間および本助成事業にも応募する理由を説明した申立書を提出する。なお，本助成に採択された者が，IGU の活動に係る研究集会で発表が許可されなかった場合には，その旨，直ちに学会事務局に申し出る。本助成の採択者が発表を取り止めた場合には，助成の全額を返却する。

5 ．申請の審査

申請に対する助成の可否は，会長が指名する会員 3 名からなる選考委員会で審査する。選考結果は，申請者に文書で通知するとともに，採択者名，研究発表タイトル，研究集会名などは，機関誌「人文地理」の彙報欄に掲載する。

6．助成額

1 年度あたりの助成総額は，50 万円を上限とする。1 件あたりの助成は，20 万円を限度とする。

7．義務

助成を受けたものは，研究発表終了後 1 ヵ月以内に，会計報告書（航空代金の領収書，航空搭乗券の半券を添付）および発表報告書を学会事務局に提出しなければならない。発表報告書の内容は，（1）研究発表の概要（500 字程度），(2) 研究発表の成果（200 字程度），(3) その他（100 字程度）とし，提出された報告書は，機関誌「人文地理」の彙報欄に掲載する。また，この発表をもとに論文または著書を刊行する場合，本助成を受けた刊行である旨を明記する必要がある。

一般社団法人人文地理学会　2014年度　決算(案)

＜収入の部＞

	科目	14年度予算	14年度決算	執行率	差額	
1	会費	¥13,000,000	¥12,712,050	97.8%	¥-287,950	
2	出版物売上	¥1,000,000	¥1,060,342	106.0%	¥60,342	
3	雑収入	¥100,000	¥841,714		¥741,714	
	(雑収入)	¥100,000	¥98,714	98.7%	¥-1,286	
	(大会収入)		¥743,000			
4	受取利息	¥5,000	¥1,838	36.8%	¥-3,162	
5	未払い費用(選・名)	¥300,000	¥0	0.0%	¥-300,000	
6	研究成果公開促進費	¥0	¥0	100.0%	¥0	
7	寄付	¥26,000,000	¥27,261,672	104.9%	¥1,261,672	
	計	¥40,505,000	¥41,877,616	103.4%	¥1,372,616	

＜支出の部＞

	科目	14年度予算	14年度決算	執行率	差額	
1	雑誌生産費	¥5,700,000	¥5,961,081	104.6%	¥-261,081	
2	(超過頁課金)		¥-30,000		¥-30,000	
	(在庫分差引)		¥-323,000			
3	編集費	¥800,000	¥636,634	79.6%	¥163,366	
4	雑誌発送費	¥800,000	¥640,070	80.0%	¥159,930	
5	集会費	¥300,000	¥217,850	72.6%	¥82,150	
6	大会開催費※	¥800,000	¥1,246,908	155.9%	¥-446,908	巡検含む
7	研究部会運営費	¥400,000	¥329,444	82.4%	¥70,556	
8	給料手当	¥3,300,000	¥3,207,744	97.2%	¥92,256	
9	保険料	¥40,000	¥153,785	384.5%	¥-113,785	
10	役務費	¥80,000	¥28,000	35.0%	¥52,000	
11	旅費・交通費	¥350,000	¥421,000	120.3%	¥-71,000	
12	通信費	¥200,000	¥287,722	143.9%	¥-87,722	
13	顕彰事業費	¥70,000	¥56,593	80.8%	¥13,407	
14	企画・広報事業費	¥250,000	¥0	0.0%	¥250,000	
15	会合費	¥150,000	¥119,310	79.5%	¥30,690	
16	選挙費	¥0	¥0	100.0%	¥0	
17	選挙費積立金	¥150,000	¥150,000	100.0%	¥0	
18	諸印刷費	¥50,000	¥29,884	59.8%	¥20,116	
19	名簿作成発送費	¥0	¥0	100.0%	¥0	
20	名簿作成発送費積立金	¥150,000	¥150,000	100.0%	¥0	
21	備品費	¥100,000	¥43,794	43.8%	¥56,206	
22	備品費積立金	¥0	¥0	0.0%	¥0	
23	消耗品費	¥100,000	¥141,833	141.8%	¥-41,833	
24	機械借上費	¥100,000	¥129,342	129.3%	¥-29,342	
25	室料(家賃)	¥1,230,000	¥1,317,073	107.1%	¥-87,073	電気代も含む
26	雑損	¥10,000	¥0	0.0%	¥10,000	15年度以降は「雑費」
27	支払手数料	¥200,000	¥39,912	20.0%	¥160,088	15年度以降は「相談手数料」
28	予備費	¥200,000	¥6,216	3.1%	¥193,784	
	計	¥15,530,000	¥14,961,195	96.3%	¥568,805	
	収支差額	¥24,975,000	***¥26,916,421***			

※「大会開催費」は、任意団体時代は本部会計からの支出分のみを本表に算入していた。しかし、(決算報告は出しているものの独立して計算していた)大会収入と大会開催校の会計も、今後は併せて計算することとなった。この点は、14年度予算作成時には考慮されておらず、その一方で決算には反映させたことから、見かけ上大幅な赤字となっている。実際には、大会収入を収入の部(「雑収入」)に記載したため、その額を合わせると黒字である(14年度…収入:大会収入743,000円＋本部から大会校へ700,000円、支出:本部からの出費546,744円＋会場校での出費700,164円)。

参考)【資金会計】

	科目	14年度期首	14年度期末	15年度期首
	＜資産の部＞			
1	振替貯金(ゆうちょ)	¥958,213	¥2,152,457	¥2,152,457
2	普通預金(みずほ)	¥9,136,605	¥4,997,076	¥4,997,076
	普通預金(新生)	¥5,506,443	(解約)	
3	通常貯金(ゆうちょ)	¥6,919,160	¥4,942,659	¥4,942,659
4	現金	¥50,922	¥50,711	¥50,711
5	定期預金(みずほ)	¥2,336,535	¥7,336,564	¥7,336,564
6	定額貯金(ゆうちょ)		¥5,000,000	¥5,000,000
7	会誌在庫分		¥323,000	¥323,000
8	仮払金(大会準備)		¥800,000	¥800,000
9	未収入金		¥226,864	¥226,864
10	保証金(発明センター)	¥1,400,000	¥1,400,000	¥1,400,000
	＜負債の部＞			
11	預り金		¥-12,910	¥-12,910
12	選挙・名簿関連積立金		¥-300,000	¥-300,000
	計	¥26,307,878	¥26,916,421	¥26,916,421
	期首期末差額		¥608,543	

注1)「仮払金」は2015年大会の準備のための費用。
注2)「未収入金」は部会費等で9月30日時点で返金の記録がないもの。
注2)「預り金」は源泉所得税等。

一般社団法人 人文地理学会　　2015年度　予算

＜収入の部＞

	科目	15年度予算	
1	会費	¥10,496,600	
2	出版物売上	¥1,000,000	
3	雑収入	¥60,000	著作権協会等
4	受取利息	¥2,000	
5	未払い費用(選・名)	¥300,000	選挙実施年
6	大会収入(参加費・広告)	¥805,000	
7	計	¥12,663,600	

＜支出の部＞

	科目	15年度予算	
1	雑誌生産費	¥5,000,000	
2	(超過頁課金)		
3	編集費	¥500,000	
4	雑誌発送費	¥620,000	
5	集会費	¥210,000	
6	大会開催費	¥1,400,000	
7	研究部会運営費	¥400,000	¥80,000×5部会
8	給料手当	¥1,800,000	
9	保険料	¥300,000	雇用保険・労災保険
10	役務費	¥10,000	
11	旅費・交通費	¥380,000	
12	通信費	¥200,000	
13	顕彰事業費	¥70,000	
14	企画・広報事業費	¥10,000	
15	会合費	¥100,000	
16	選挙費	¥160,000	
17	選挙費積立金	¥0	
18	諸印刷費	¥40,000	
19	名簿作成発送費	¥400,000	
20	名簿作成発送費積立金	¥0	
21	備品費	¥0	
22	備品費積立金	¥20,000	
23	消耗品費	¥100,000	
24	機械借上費	¥120,000	
25	室料(家賃・光熱費)	¥1,230,000	当月の家賃と前月の電気代
26	相談手数料	¥50,000	司法書士・税理士謝金
27	寄付金	¥100,000	国際地理オリンピック寄付
28	若手研究者国際会議派遣助成	¥500,000	IGU京都大会返金を活用
29	租税公課	¥80,000	法人税、収入印紙代
30	雑費	¥10,000	
31	予備費	¥200,000	慶弔費も含む
	計	¥14,010,000	
	収支差額	¥-1,346,400	

貸借対照表

一般社団法人人文地理学会
2014年度　2014年10月 1日 ～ 2015年 9月30日　単位：円

勘定科目		繰越残高	借方金額	貸方金額	残高	構成比
資産の部						
【流動資産】		0	55,604,224	30,189,083	25,415,141	100.0
(当座資産)		0	54,804,224	30,189,083	24,615,141	96.9
現金	1000	0	8,594,580	8,728,695	-134,115	-0.5
振替貯金	1010	0	11,654,298	9,181,341	2,472,957	9.7
普通預金	1020	0	11,534,817	6,537,741	4,997,076	19.7
通常貯金	1030	0	10,683,965	5,741,306	4,942,659	19.4
定期預金（みずほ）	1040	0	7,336,564	0	7,336,564	28.9
定額貯金(ゆうちょ)	1045	0	5,000,000	0	5,000,000	19.7
(棚卸資産)		0	0	0	0	0.0
(その他の流動資産)		0	800,000	0	800,000	3.1
仮払金	1391	0	800,000	0	800,000	3.1
【固定資産】		0	0	0	0	0.0
(有形固定資産)		0	0	0	0	0.0
(無形固定資産)		0	0	0	0	0.0
(投資その他の資産)		0	0	0	0	0.0
【繰延資産】		0	0	0	0	0.0
(繰延資産)		0	0	0	0	0.0
資産合計		0	55,604,224	30,189,083	25,415,141	100.0
負債の部						
【流動負債】		0	75,210	87,610	12,400	0.0
預り金	1700	0	75,210	87,610	12,400	0.0
【固定負債】		0	0	0	0	0.0
負債合計		0	75,210	87,610	12,400	0.0
純資産の部						
【資本金】		0	0	0	0	0.0
【新株式申込証拠金】		0	0	0	0	0.0
【資本剰余金】		0	0	0	0	0.0
(資本準備金)		0	0	0	0	0.0
(その他資本剰余金)		0	0	0	0	0.0
【利益剰余金】		0	0	25,402,741	25,402,741	100.0
(利益準備金)		0	0	0	0	0.0
(その他利益剰余金)		0	0	0	0	0.0
(繰越利益剰余金)		0	0	25,402,741	25,402,741	100.0
当期純利益	1969	0	0	25,402,741	25,402,741	100.0
【自己株式申込証拠金】		0	0	0	0	0.0
【自己株式】		0	0	0	0	0.0
【繰延ヘッジ損益】		0	0	0	0	0.0
【土地再評価差額金】		0	0	0	0	0.0
【その他評価・換算差額】		0	0	0	0	0.0
【新株予約権】		0	0	0	0	0.0
純資産合計		0	0	25,402,741	25,402,741	100.0
負債純資産合計		0	75,210	25,490,351	25,415,141	100.0

処理日付：2015年10月 1日

損益計算書

一般社団法人人文地理学会
2014年度　2014年10月 1日 ～ 2015年 9月30日　単位：円

勘定科目		繰越残高	借方金額	貸方金額	残高	構成比
【売上高】		0	216	39,668,126	39,667,910	100.0
会費	2000	0	0	12,702,550	12,702,550	32.0
出版物売上	2001	0	0	1,060,342	1,060,342	2.7
寄付金収入	2002	0	216	25,162,398	25,162,182	63.4
大会収入	2003	0	0	742,836	742,836	1.9
【売上原価】		0	0	0	0	0.0
売上総利益		0	0	39,667,910	39,667,910	100.0
【販売費及び一般管理費】		0	14,604,380	238,659	14,365,721	36.2
雑誌生産費	2310	0	5,961,081	0	5,961,081	15.0
超過賃課金	2311	0	0	30,000	-30,000	-0.1
編集費	2320	0	637,384	750	636,634	1.6
雑誌発送費	2330	0	640,070	0	640,070	1.6
集会費	2340	0	300,000	0	300,000	0.8
大会開催費	2350	0	546,744	0	546,744	1.4
研究部会運営費	2360	0	400,000	70,556	329,444	0.8
給料手当	2370	0	3,207,744	0	3,207,744	8.1
保険料	2380	0	276,468	122,683	153,785	0.4
役務費	2390	0	28,000	0	28,000	0.1
旅費・交通費	2400	0	430,660	10,120	420,540	1.1
通信費	2410	0	291,612	3,890	287,722	0.7
顕彰事業費	2430	0	56,593	0	56,593	0.1
会合費	2450	0	119,970	660	119,310	0.3
諸印刷費	2470	0	29,884	0	29,884	0.1
備品費	2500	0	43,794	0	43,794	0.1
消耗品費	2510	0	141,833	0	141,833	0.4
機械借上費	2520	0	129,342	0	129,342	0.3
室料（家賃）	2530	0	1,317,073	0	1,317,073	3.3
予備費	2550	0	6,216	0	6,216	0.0
相談手数料	2591	0	39,912	0	39,912	0.1
営業利益		0	0	25,302,189	25,302,189	63.8
【営業外収益】		0	0	100,552	100,552	0.3
受取利息	2600	0	0	1,838	1,838	0.0
雑収入	2640	0	0	98,714	98,714	0.2
【営業外費用】		0	0	0	0	0.0
経常利益		0	0	25,402,741	25,402,741	64.0
【特別利益】		0	0	0	0	0.0
【特別損失】		0	0	0	0	0.0
税引前当期純利益		0	0	25,402,741	25,402,741	64.0
【法人税等】		0	0	0	0	0.0
当期純利益		0	0	25,402,741	25,402,741	64.0
〔旧未処分利益増減〕		0	0	0	0	0.0
旧当期未処分利益		0	0	25,402,741	25,402,741	64.0

処理日付：2015年10月 1日

一般社団法人人文地理学会の永年会費のご案内

１．趣旨

人文地理学会の会員として長年学会に貢献された方々が，定年などを機会に退会されることが少なくないのが現状です。本学会では，こうした方々に長く会員として留まっていただき，学会活動に積極的・継続的に参加していただくために,永年会費を設けることにいたしました。

２．永年会費の内容

本人からのお申し出があれば，65歳以上の会員は8万円,70歳以上の会員は4万円の一時金支払いをもって，永年会費の納入となり、その後に会費を納入いただく必要はありません。永年会費納入者は，会員としての資格，特典については何ら制限を受けることはありません。会員名簿にも一般会員として掲載し，変更はありません。また，経済情勢の変化により，一時金の金額が将来変更されることもあり得ますが，その際にも既に納入した会員に増額をお願いすることはありません。

３．永年会費への移行

満年齢で65歳あるいは70歳を過ぎた会員の方で、永年会費への移行を希望される会員は、生年月日が明記された書類のコピーを添えて、その旨を人文地理学会事務局にお知らせ願います。基本的に、上記の満年齢到達後の最初の会費年度（1月～12月）から、永年会費に移行することになります。なお、提出いただいた書類のコピーは、永年会費への申し込み条件の確認以外には使用しないことを申し添えます。

４．申し込み方法

永年会費への移行を希望される会員は，下記の要領でお申し込み下さい。

① 封書，ファックス，あるいは電子メールにて，人文地理学会事務局に申し込んで下さい（電話での申し込みは，受け付けておりません）。事務局の住所、ファックス、メールアドレスは、以下のとおりです。

〒606-8305　京都市左京区吉田河原町 14
近畿地方発明センター合同ビル内　一般社団法人人文地理学会事務局
FAX (075) 708-5515
EMAIL jimchi48@yahoo.co.jp

② 学会事務局から，払込用紙を送付します。

③ 払込用紙により送金して下さい。

④ 事務局より一時金受領書を送付します。